

薩摩のうんせんも、今に焼くるなり、中國にては聞くことなし、大明一統志を見るに、西北夷に火州と云ふ處、南北朝の比より唐までは高昌國と云ふ地なり、其國に火焰山と云ふ山あり、山中常に烟氣ありて涌き上り、雲霧なし、夕に至りて、光烟炬火の如くか、やき見ゆ、禽鼠皆赤しと云へり、亦其隣國に白山と云ふあり、山中常に火烟あり、確砂を産す、此を取る者、木底の鞍を著けて取る、皮なるものは、即焦ぐる、穴有りて、青泥を出だす、外へ出づれば、即砂石となる、只此二國のみ、山の焼け出づることを記す、是も火州は南于闐に抵り、東南肅州に至ると有り、中國より遙に西北夷狄の地なり、

〔和漢三才圖會山五十六〕地獄

按地獄之所在不知何處、而就字義入地部、出名目耳、日本有地獄、皆高山嶽常燒溫泉不絕、若肥前、溫泉

豐後鶴見 肥後阿蘇 駿河富士 信濃淺間 出羽羽黒 越中立山 越乃白山 伊豆箱根 陸奥燒山 等之嶽

夙夙燃起、熱湯汪汪涌出、宛然有焦熱修羅之形勢、

豐後遠野田村 有名赤江地獄者、方十餘丈、正赤湯如血流至谷川、未冷定處、有魚常躍游、亦一異也、天竺中華高山皆有地獄、不枚舉、凡嵌地獄者、不能浮出、

〔怪異辨斷五地異〕愚傳聞、世界ノ中、火山ノ國甚多シ、意大利亞國ノ内所多シ、其中ニ羅馬國ノ火山、晝夜燃テ石ヲ百里ノ外ニ飛スト云リ、其山ニ岩洞一百アリ、其洞穴各病氣ヲ愈ス、何レノ病ハ何レノ洞、其病ハ其洞ニ入テ治スト、各功能有リ、或ハ格落蘭得ト云國ハ、地中火氣多シ、然レドモ其火氣甚シク燒穿ツ事無シ、故ニ人民地上ニ石ヲ敷テ、其上ニ家屋ヲ造テ居舍トス、家内ノ地ニ火焰到ル處ニ釜ヲ置テ食物ヲ熟ス、薪ヲ不用ト云リ、日本ニモ是ニ似タル事アリ、或行脚桑門ノ云ルハ、越後ノ國ニ戸澤氏ノ領地アリ、如法寺ト云處ナリ、民家六軒アリ、其ノ中ノ一民家ニ、土產ノ傍